小林　ひとみ

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
１　保育所の現状と今後の展望について　（２０分） 女性の就業率の増加やワークスタイルの多様性などから保育所の入所者は年々増え続けてきました。しかし、定員を満たさない保育施設が約４割に上ることが、一部自治体を対象とした読売新聞のアンケート調査で分かりました。各自治体は「待機児童ゼロ」を掲げて受け皿整備に努めてきましたが、少子化により、２０２５年に保育施設を利用する子どもの数がピークを迎えると見込まれることが、厚生労働省の調査結果により明らかになりました。本市においても「待機児童ゼロ」を掲げ、保育施設の整備に努めてきました。しかし、長期的視野に立てば、少子化により今後の施設整備の在り方を見直す時期を迎えつつあるのではないでしょうか。こうしたことから、本市の保育現場の現状と今後の課題について、以下質問いたします。 （１）保育所の入所者数の推移と今後の見込みについて （２）保育の質の向上についての取組は。 （３）保育士確保の現状は。 （４）保育所の今後の課題は。	市　長
２　がん検診の現状と取組について　（１５分） 厚生労働省によると、がんは我が国において、昭和５６年から死亡原因の第１位であり、がんによる死亡者数は３０万人を超える状況となっています。現在、日本人の２人に１人はがんになり、３人に１人はがんで亡くなる時代です。がんは診断と治療の進歩により、早期発見、早期治療が可能となっていることから、がんによる死亡者数を減少させるためには、がん検診の受診率を向上させ、がんを早期に発見することが極めて重要であります。しかし、我が国では、がん検診受診率が低い状況にあります。例えば乳がんや子宮頸がん検診においては、欧米の受診率は７０～８０％といわれるのに対して、日本は５０％にも満たない状況です。がん検診の受診率を向上させることが何より重要なことと考えます。そこで以下、質問いたします。 （１）本市のがん検診の現状について （２）がん検診の受診率向上に向けた取組について	市　長

小林　ひとみ

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
３　帯状疱疹の予防接種について　（１０分） 帯状疱疹は５０歳代から発症しやすくなり、日本では８０歳までに約３人に１人がかかると言われています。子どもの頃にかかった水痘（みずぼうそう）のウイルスが、ストレスや免疫が低下した際に発症します。帯状の水ぶくれを伴い赤い発疹や強い痛みが３～４週間程度続きます。皮膚の水泡が消えてからも、５０歳以上の約２割の方が、長い間痛みが残る「帯状疱疹後神経痛」になると言われています。 この帯状疱疹にはワクチン接種が有効です。５０歳以上の方は帯状疱疹の予防接種を受けることができます。しかし、予防接種があることすら知らない人もいます。この予防接種は２種類あり、医療機関によって費用は異なりますが、１回接種で約８，０００円から２回接種で約５０，０００円と高額となる場合もあります。受けるには全額自己負担になります。コロナ禍でストレスや疲れを抱える人が増えています。 こうしたことから、予防接種に対して補助制度を導入すべきではないでしょうか。以下質問いたします。 （１）ワクチンの周知について （２）予防接種の補助制度の導入について	市　長